

平成29年度事業計画

<事業計画>

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

I 基本方針

水産業、漁村を取り巻く環境は、水産資源の減少や魚価の低迷、漁業の担い手の減少・高齢化など多くの課題を抱えている。また、近い将来、東海、東南海、南海等の大規模な地震津波の発生が懸念されており、台風や集中豪雨等の自然災害に対し脆弱な漁村等の防災・減災対策も喫緊の課題となっている。

加えて、海洋環境の変化、我が国周辺海域での外国漁船の操業、国際的な漁業規制の強化など水産業を取り巻く環境は大変厳しいものがある。

このような中、国民に安全・安心な水産物を安定的に提供し、漁業地域の経済を支える水産業が持つ重要な役割を今後とも果たしていくためには、我が国の水産業を持続的・安定的な成長産業として再生させる必要がある。

今年水産基本計画が変更され、新たな漁港漁場整備長期計画がスタートする年となる。長期計画に盛り込まれる重点課題としての、水産業の競争力の強化と輸出促進、豊かな生態系の創造と海域の生産力の向上、大規模自然災害に備えた対応力強化、漁港ストックの最大限の活用と漁村の賑わいの創出については、総合的、重点的な事業を推進していく必要がある。

更に、水産業を魅力ある産業として次世代に伝え、豊かで安心して暮らせる漁村づくりのために、様々な地域資源を活かした浜の活力再生プラン支援事業、水産多面的機能発揮対策や渚泊の推進など水産業・漁村の活性化にも取り組む必要がある。

本会としては、これらの課題の解決に向けた漁港・漁場・漁村の総合的な整備の推進、活力ある漁村づくりに向けて、今後とも水産業や漁村の実態を広く伝えるとともに、水産業、漁村の重要な役割について国民の理解と支持を得るための広報・啓発活動や地域振興、環境保全等の課題に積極的に取り組む。

また、漁港の長寿命化の検討に資する漁港情報クラウドシステムの普及などにも積極的に取り組む。

こうした活動・事業については、引き続き事業にメリハリをつけ経費の節減を図るとともに、国や地方公共団体からの受託事業の確保や出版事業の一層の拡充に努め、効率的、効果的な事業運営に努める。

II 事業計画の概要

1. 漁港、漁場、漁村等に関する講習会、研究発表会の開催

漁港漁場漁村の効率的な整備の推進、総合的な利活用を図るためには、調査研究や技術、情報の普及が不可欠である。

そのため、漁港漁場漁村関係者を対象とした漁港漁場漁村関連の最新の制度、事業、技術等に関する講習会、研究発表会等を関係機関と協力して開催する。

(1) 漁港漁場講習会の開催

水産庁の協力を得て、幅広い漁港漁場漁村関連事項を中心とした漁港漁場講習会を東京都内で開催する。

(2) 第16回全国漁港漁場整備技術研究発表会の開催

水産庁及び青森県と共催し、11月頃に青森県において第16回全国漁港漁場整備技術研究発表会を開催する。

2. 全国漁港漁場大会等の開催

(1) 第68回全国漁港漁場大会の開催

10月31日、岩手県盛岡市の「岩手県民会館大ホール」において、水産業の振興、地域の活性化を目指す取組み等に関する情報と意見を交換し、漁港・漁場・漁村の総合的整備

に関する方策を議論する第68回全国漁港漁場大会を開催する。

大会においては、水産基盤整備事業に関連する諸問題について討議を行い、全国の漁港

漁場関係者の総意としての提言をとりまとめる。また、提言内容の実現を図るため、水産

関係団体と連携を取り、政府、国会に対する要請活動を実施する。

(2) 各種会議等での要請活動

漁港漁場漁村の整備の促進を期するためには、政府、国会だけでなく、政党、関係諸団体の理解と支援を得ることが重要であるため、政党、関係諸団体等の各種会議、集会等に積極的に出席して情報の的確な把握に努めるとともに、強力な支援を要請する。

3. 漁港、漁場、漁村等に関する調査研究の実施

(1) 国及び地方公共団体が実施する漁港、漁場、漁村等に関する調査研究に対して積極的に協力する。

(2) 漁港情報クラウドシステムの運営を開始し、地方公共団体等に漁港台帳等の電子

化とそれらのデータの効率的・効果的な利用に関するサービスを提供する。

4. 漁港、漁場、漁村等に関する資料の収集

漁港漁場漁村の整備に必要な諸制度及び技術の研究開発等に関する資料や漁港漁場漁村の実態等の資料収集に努めるとともに、水産基盤整備事業に関する地方公共団体の負担割合の調査を会員の協力のもとで実施する。

5. 漁港、漁場、漁村等に関する国際交流

日韓漁港漁場漁村技術交流会議は、平成9年に第1回会議を日本で開催し、毎年交互に開催国となっている。

本年は第20回会議を韓国で開催する予定であり、漁港漁場漁村の整備や漁村地域の活性化に関する技術、情報等の交換を行う。

また、漁港漁場に関連する国際会議・学会の支援、海外からの漁港視察団や研修員の受入についても要請に応じ対応する。

6. 漁港、漁場、漁村等に関する指導・助言

(1) 地区協議会・都道府県漁港漁場協会総会等

地区における協議会及び都道府県漁港漁場協会総会等に参加し、漁港、漁場、漁村、海岸の整備等に関する情報の発信、交換に努め、これらの整備促進に向けた積極的な活動を要請する。

(2) 特定第3種漁港市長協議会

特定第3種漁港市長協議会の活動に参画するとともに講演等の企画や情報収集を支援する。また、当協議会が参加している全国水産都市三団体連絡協議会の活動等を支援する。

(3) 漁港漁場検診の実施

都道府県協会又は漁港管理者等の依頼に応じて、漁港漁場検診に参加する。

7. 漁港、漁場、漁村等に関する啓発普及

漁港漁場漁村の重要性やその整備の必要性について、財政当局など政府、国会、政党への提言のほか、一般国民の理解と支援を得るためにホームページによる広報や啓発普及資料の作成等の取り組みを行う。

平成29年度においては、漁港漁場漁村がおかれている状況を十分に踏まえつつ、次の諸事業を行うほか、各都道府県協会や水産関係団体等と密接な連携をとり、漁港漁場漁

村の役割や現状等に関して効果的な啓発普及を実施するとともに、都道府県協会等における啓発普及活動の積極的な支援を行う。

(1) 地震津波等の防災対策の啓発普及

近い将来、東海、東南海、南海地震津波等の発生が憂慮されていることや近年台風、集中豪雨等の猛威が増していることから、全国漁港海岸防災協会と協力して、漁港海岸に関するハード対策の必要性を強力に訴えるとともに、人命の安全を第一とした避難等の重要性の啓発普及活動を行う。

(2) 漁村の環境整備の啓発普及

都市部に比べて著しく遅れている漁村の生活環境の改善を積極的に推進するため、水産庁等と連携を図りつつ、漁村の生活環境改善に対する理解を一層促進するとともに、安全で暮らしやすい漁村の生活環境の実現に向けて、関係機関・団体と一致協力して対処する。

(3) 漁港漁場漁村環境美化に関する啓発普及

漁港漁場愛護精神の啓発に努めるとともに、漁港漁村環境整備事業及び(公財)海と渚環境美化・油濁対策機構によるクリーンアップ事業とも協調して、美しく快適な漁港漁村環境の創出に努める。

(4) プレジャーボート対策等の漁村活性化に関する取組

水産関係団体及び「海の駅ネットワーク」などプレジャーボート等海洋レクリエーション関係機関・団体と協力して、プレジャーボート等の適正な係留保管の推進、プレジャーボート等を通じた都市漁村交流、漁村活性化の推進に努める。

また、要請に応じてフィッシャリーナの認定等を行う。

(5) ホームページの充実

ホームページの一層の充実を図り、漁港漁場漁村に関する情報を適時・的確に提供することにより、水産業・漁村の重要性、水産基盤整備等の必要性に関する支持の拡大、都道府県協会との連携等に努める。

(6) 漁村女性セミナーの開催等

活力ある漁村づくりのために、女性の視点から漁村の女性が積極的に発言し、貢献していくことを期待し、漁村女性セミナーを開催する。

(7) 漁港漁場功績者等の表彰

第74回定時総会に先立ち、全国漁港漁場協会表彰規程に基づき平成29年度の漁港漁

場功績者（漁港漁場協会役職員、市町村漁港漁場担当職員）、優秀漁港漁場事業実施機関及び漁港漁場愛護団体の表彰を行う。

(8) 2017 漁港漁場漁村海岸写真コンクールの実施

写真を通じて漁港・漁場・漁村・海岸への一般の人々の理解を深め、併せて水産業の重要性をPRするため、全国漁港海岸防災協会との共催により、水産庁の後援、関係団体の協力を得て写真コンクールを実施する。

(9) 都道府県協会が行う啓発普及等に対する支援

都道府県協会が行う研修会等の事業を支援する。

8. 漁港、漁場、漁村等に関する情報誌、関係図書の出版及び漁港標識の斡旋等

(1) 機関紙「漁港漁場月報」、機関誌「漁港漁場」の発行

機関紙「漁港漁場月報」を毎月、機関誌「漁港漁場」を年4回発行し、会員及び関係省庁等に配布して、漁港漁場漁村及び海岸の整備促進等に関する情報の交換、意識の高揚等に努める。

(2) 関係図書の出版等

漁港漁場漁村及び海岸等に関する知識の普及並びに関係者への利便に資するため、出版事業の一層の充実に努め、各種参考書、解説書及び資料等を発行するとともに、漁港標識の斡旋販売を行う。

また、本会の出版に限らず、地方発刊の書籍を含め、漁業や漁港漁場漁村に関する優良出版物をホームページや漁港漁場月報等で紹介、斡旋する。